

HAPA-Bの呼吸器感染症に対する臨床的検討

鐘ヶ江秀明・重松 信昭

九州大学医学部胸部疾患研究施設

HAPA-Bを急性あるいは慢性の呼吸器感染症6例に単独使用し、有効2例、やや有効4例の臨床的効果を得た。

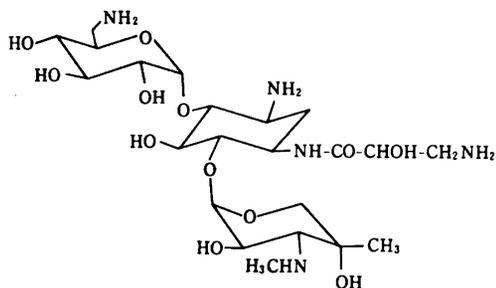
本剤によると思われる副作用ならびに臨床検査値の異常は認められなかった。

以上のことから、本剤は呼吸器感染症の治療に有効性が期待されるものと考えられた。

HAPA-Bは、米国シェリング社によって創製され、東洋醸造株式会社とエッセクス日本株式会社で共同開発されたアミノ配糖体系抗生剤(AGs)である。本剤の化学構造式はFig. 1に示す通りで、抗菌力の面では、グラム陽性菌およびグラム陰性菌に対し幅広い抗菌作用を示し、かつ殺菌的であるとされている¹⁾。

われわれは呼吸器感染症6例に本剤を使用する機会を得たので、ここにその成績を報告する。

Fig. 1 Chemical structure of HAPA-B



I. 対象および投与方法

対象は昭和59年6月1日より昭和59年8月31日までの間に、九州大学医学部呼吸器科に入院中であった呼吸器感染症を有する患者のうち、適当と思われた6症例である。内訳は、男性4例、女性2例、年齢は53歳から78歳で、急性気管支炎3例、気管支拡張症1例、気管支肺炎1例、慢性細気管支炎1例であった。

投与量および投与方法についてはHAPA-B 1回150mgないし200mgを1日2回、上腕部あるいは臀部に筋注射し、投与期間は、7日間から14日間に及んだ。

臨床的効果は、自覚症状の改善、赤沈、CRP、白血球などを指標とし、著効、有効、やや有効、無効の判定を行った。

II. 成績

症例は、Table 1およびTable 2に示したとおりで、以下におおのこの症例につき概略を述べる。

(症例1) 53歳、男性、急性気管支炎

元来、気管支拡張症の寛解、増悪を反復していた患者で、今回も基礎疾患の悪化のため入院。CRP 1+, 白血球10500, 37°C台の微熱があり、喀痰中から*H. influenzae*が多数分離された。本剤(200mg×2×9)投与後、CRP-, 白血球6800, 体温も36°C台で安定したため、喀痰中の菌の減少は認められなかったものの、やや有効と判定した。副作用、検査値の異常は認めなかった。

(症例2) 69歳、男性、急性気管支炎

手術適応のない肺癌患者で、気道感染を併発。CRP 4+, 白血球12700, 喀痰中に*K. pneumoniae*, *Acinetobacter anitratus*が検出され、本剤(200mg×2×14)投与と共に喀痰中より菌は消失し、CRP 2+, 白血球6800と改善した。自覚的にも倦怠感が軽減しやや有効と判定した。副作用、検査値の異常はなかった。

(症例3) 68歳、女性、慢性細気管支炎

10年来の慢性副鼻腔炎の患者で、3年程前より咳、痰が徐々に出現。今回、咳、痰の増悪と共に微熱が持続し、喀痰中からは*H. influenzae*が検出された。本剤(200mg×2×11)投与により、自覚症状は改善し喀痰中の*H. influenzae*は消失したが、ごく少数の*E. cloacae*が出現した。HAPA-B投与中止後7日にて*E. cloacae*も消失した。このため、臨床的には有効と判定した。尚、副作用、検査値の異常はなかった。

(症例4) 59歳、女性、気管支拡張症

20歳頃より慢性副鼻腔炎があり、50歳頃より咳、痰が出現、長年にわたり緑膿菌感染が持続している患者である。本剤(200mg×2×14)投与により、赤沈の軽度改善; 喀痰量の軽度減少を認めたが、喀痰内の*P. aeruginosa*を減少せしめるには致らず、やや有効と判定した。尚、患者が注射

Table 1 Clinical results with HAPA-B

No.	Age	Sex	Infection	Underlying disease or complication	Doses (mg×times×days)	Isolated organism		Clinical effect	Side effect
						Before	After		
1	53	M	Acute bronchitis	Bronchiectasis	200×2×9	<i>H. influenzae</i>	<i>H. influenzae</i>	fair	(-)
2	69	M	Acute bronchitis	Lung cancer	200×2×14	<i>K. pneumoniae</i> <i>Acinetobacter anitratus</i>	N.F.	fair	(-)
3	68	F	Chronic bronchiolitis	Chronic paranasal sinusitis	200×2×11	<i>H. influenzae</i>	<i>E. cloacae</i>	good	(-)
4	59	F	Bronchiectasis	Chronic paranasal sinusitis	200×2×14	<i>P. aeruginosa</i>	<i>P. aeruginosa</i>	fair	(-)
5	78	M	Acute bronchitis	Rheumatoid arthritis	150×2×7	<i>H. influenzae</i>	N.F.	fair	(-)
6	77	M	Bronchopneumonia	Pneumoconiosis	200×2×15	<i>K. pneumoniae</i>	N.F.	good	(-)

Table 2 Laboratory findings

Case	RBC (×10 ⁴ /mm ³)	Hb (g/dl)	Plt (×10 ⁴ /mm ³)	WBC (/mm ³)	CRP	GOT (KU)	GPT (KU)	BUN (mg/dl)	Creat. (mg/dl)	
1	b	547	15.6	24.5	10,500	+1	13	12	11	0.9
	a	565	16.2	31.0	6,800	—	13	9	11	0.9
2	b	402	12.7	63.9	12,700	+4	21	31	14	1.1
	a	384	12.0	41.5	6,800	+2	18	19	13	0.8
3	b	411	13.3	25.3	4,300	—	21	13	13	0.6
	a	400	12.6	20.2	5,400	—	25	23	11	0.6
4	b	431	11.9	33.1	6,000	—	17	9	11	0.6
	a	418	11.5	29.2	6,500	—	16	11	10	0.5
5	b	387	11.1	25.2	20,500	+6	8	17	19	1.0
	a	369	10.5	31.1	8,800	+2	7	10	17	1.0
6	b	429	13.5	31.0	7,400	+2	17	12	14	0.9
	a	465	13.7	23.4	6,200	—	25	27	13	1.0

b: before treatment a: after treatment

部位の疼痛を訴えることがあったが、他のアミノ配糖体系薬剤使用時よりも疼痛は軽度で、副作用として特記すべきものとは言い難いと思われた。また、検査値の異常は認めなかった。

(症例5) 78歳、男性、急性気管支炎

肺病変を伴う慢性関節リウマチ患者で、気道感染を合併。

喀痰中より *H. influenzae* を検出し、本剤 (150 mg×2×7) 投与後、口腔内常在菌のみとなる。CRP、白血球数の改善も認め、やや有効と判定した。副作用および検査値の異常は認めなかった。

(症例6) 77歳、男性、気管支肺炎

塵肺症の患者で、咳、痰の増悪、微熱の出現をみ、喀痰

中より *K. pneumoniae* を検出。本剤 (200 mg×2×15) 投与後、咳、痰の減少、微熱の消失、CRP、白血球数の改善を認め、喀痰中は口腔内常在菌のみとなり、有効と判定した。副作用、検査値の異常は認めなかった。

III. 考 按

今回、我々は HAPA-B を呼吸器感染症患者 6 症例に使用し、有効 2 例、やや有効 4 例の臨床的効果を得た。本剤

によると思われる副作用および臨床検査値異常において、特記すべきものは認められなかった。以上より、本剤は呼吸器感染症に対して有用性が期待されるものと考えられた。

文 献

- 1) 第 31 回日本化学療法学会東日本支部総会, 新薬シンポジウム, HAPA-B, 1984

CLINICAL STUDIES ON HAPA-B IN THE TREATMENT OF RESPIRATORY TRACT INFECTION

HIDEAKI KANEGAE and NOBUAKI SHIGEMATSU

Research Institute for Diseases of the Chest, Faculty of Medicine, Kyushu University

HAPA-B was applied to the treatment of 6 patients with acute or chronic respiratory tract infections.

Clinical response were good in 2 and fair in 4.

Neither side effects nor abnormal laboratory findings were observed in any of these patients.